



完璧なる不正:

選挙不正の軸となる6つの策謀

計画の概要

本レポートは主要な戦場となる6つの州において選挙不正疑惑の軸となる6つの策謀を検証することにより、2020年アメリカ大統領選挙の公正性と正当性を評価するものである。この評価を導くために用いられた証拠は50件以上の訴訟や司法判決、数千件に及ぶ宣誓供述書や宣誓書、様々な州の公聴会の証言、シンクタンクやリーガルセンターから公表された分析、映像や写真、パブリックコメント、報道などが含まれている。

下記の表が示すのは、6つの激戦州の全てで、6つの策謀を絡める重大な不正が起きた事を示している。この発見は、選挙がドナルド・J・トランプ大統領から盗まれたという主張に信憑性を与えるものである。

	ARIZONA	GEORGIA	MICHIGAN	NEVADA	PENNSYLVANIA	WISCONSIN
Outright Voter Fraud	✓	✓	*	✓	*	✓
Ballot Mishandling		✓	✓	✓	✓	✓
Contestable Process Fouls	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Equal Protection Clause Violations	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Voting Machine Irregularities	✓	✓	✓	✓	✓	*
Significant Statistical Anomalies	✓	✓	✓	✓		✓

✓ = Wide-Spread Evidence * = Some Evidence

このレポートの調査結果から、トランプ-ペンス陣営に対抗して選挙を有利に進めるための協調的な戦略があったのではないかと推測される。実際、観測された選挙不正のパターンは6つの激戦州で一貫しているので、選挙結果をそのまま盗むというよりも、“投票箱を不正票で詰まらせる”といった方法などで選挙プロセスを戦略的なゲームに変え、バイデン-ハリス陣営に有利な状況へ持ち込む協調的戦略があったことを示している。この報告書のトップラインは以下の通りである。

- 不正の証拠とパターンの重大さは余りに大きく、不正の証拠がないと主張するのは、特に大手メディアにとって無責任である。
- 同定された選挙不正で問題となっている票が違法と認定された場合、例えそれが比較的小規模であっても、トランプ大統領の勝利と認定するに十分なものである。

- 6つの全ての激戦州はほとんど、あるいは全てが選挙不正の軸となる6つの策謀を備えている。しかし、各州は独自にどれを”重視する策謀”とするかを考え、それらを組み合わせている。言い換えれば、全ての激戦州は同じ、あるいは類似の選挙不正をしているが、トルストイの不幸な家族のように、それぞれが異なる選挙不正の方法をとっていると言える。
- つまりこれはただ一発の”銀の弾丸”による選挙不正ではなく、6つの激戦州にまたがる6つの次元を組み合わせた千の切り口からなる不正なのである。
- 増え続ける選挙への正当な不満を無視することで、アンチトランプメディアと検閲するソーシャルメディアは真実からアメリカ国民を引き離すことに加担している。これはメディアの信頼性を損なうと同時に、政治システムと合衆国の安定性を損なう危険なゲームである。
- 現在バイデン・ホワイトウォッシュ(疑惑の洗浄)に参加しているジャーナリスト、評論家、政治指導者達は選挙不正の6つの策謀を認め、2020年大統領選挙の真実を見極めるための適切な調査をすべきである。就任式までにこれが行われなければ、アメリカ国民の大部分の支持を欠く違法かつ不正な大統領に権限を与える事になる。
- このレポートで評価された6つの選挙不正の策謀に対する、積極的かつ完璧な調査において失敗したのは、反トランプメディアと検閲ソーシャルメディア及び、立法府と司法府へシグナルを送ることである。
 - 6つの激戦州のうちアリゾナ、ジョージア、ミシガン、ペンシルバニア、ウィスコンシンの5州は州議会の両院で共和党が過半数を占めており、うちアリゾナとジョージアの共和党知事は本レポートで報告されている選挙不正の6つの策謀を調査する権限と機会を持っていた。しかし両者は激しい政治的圧力に屈し、憲法上の義務と責任を放棄した。結果、彼らは各州とアメリカ、そして政党を裏切ることとなった。
 - 最高裁判所を含める州裁判所と連邦裁判所は、アメリカ国民が目の前に晒された不正選挙を適切に裁き、拒否する機会を奪った。これはアメリカ合衆国に大きな危険をもたらす行為である。
- もしこれらの選挙不正への調査が就任式までに実施されなければ、そしてこのまま放置された場合、合衆国は今後、公正な大統領選挙を二度と行うことが出来なくなる危険がある。ジョージア州に1月5日に実施される重要な上院選はその迫り来る危険の最初のテストケースとなるだろう。

1. イントロダクション

選挙日の深夜の時点で、トランプ大統領は2期目のビクトリーロードを順調に歩いているように見えた。彼はすでにフロリダとオハイオを制することが決定していたし、共和党がオハイオで勝利せず大統領選を取ったことはないし、民主党がフロリダで勝利せずして大統領選を取ったのは2人だけである。³

同時に、ジョージア、ペンシルバニア、ミシガン、ウィスコンシンでトランプ-ペンズ陣営は一見、逆転出来ないほどのリードを持っていた。このリードを維持されれば、これら4つの激戦州はトランプ大統領が勝利し、選挙人投票は294対244で決定的な勝利を導くはずだった。

しかし深夜になって間もなく大量の郵送票や不在者投票がカウントされ始め、トランプの赤い勝利の波はジョー・バイデンの青に変わり始めた。最終的にこれら郵送票や不在者投票が集計されると、ジョージア、ペンシルバニア、ミシガン、ウィスコンシンのトランプ大統領の大きなリードはバイデンのリードへと変わった。

11月3日の夜、Table 1に示すように、トランプ大統領はウィスコンシンで11万票以上、ミシガンで29万票以上の差をつけてリードしていた。ジョージア州では356945票、ペンシルバニア州に至っては50万票以上の差があった。しかし、12月7日、トランプのこのリードは、ジョージアでは11779票、ウィスコンシンでは20682票、ペンシルバニアでは81660票、ミシガンでは154188票とかなり肉薄するものとなっていた。

Table 1: トランプの赤い波がバイデンの青に変わる経過

	GEORGIA	PENNSYLVANIA	MICHIGAN	WISCONSIN
Trump Lead Midnight 11/3	356,945	555,189	293,052	112,022
Biden "Lead" 12/15	11,779	81,660	154,188	20,682

Sources: Associated Press & Edison/Decision Desk HQ
*Midnight based on state's time zone

アリゾナとネバダでも興味深い展開が起きていた。選挙日の夜、ジョー・バイデンはこの2つの激戦州でリード - ネバダでは3万票以上、アリゾナでは15万票 - していたが、トランプキャンペーンの内部調査では全ての票が集計されればこの差は縮まると予測されていた。もちろん、そんなことはなかった。

このトランプ陣営のリードの驚くべき逆転劇を受け、アメリカの最も神聖なる制度の1つであるアメリカ大統領選の公平性と正当性を巡り、国家的な論争が勃発した。右派や共和党の批評家達はトランプ大統領を含め選挙が盗まれたと主張している。50以上の訴訟⁴、数千もの宣誓供述書や宣言書、有罪の証拠になりそうな映像、写真、あらゆる不正行為の証言が、これらの告発を裏付けている。

一方、左派の批評家や民主党はこれらの告発を敗者の負け惜しみとして却下している。批評家の中には、不正や欺瞞、詐欺行為を否定する者もいる。あるいは多少の不正行為はあったかもしれないと認めながらも、それらは選挙結果を覆す重大なものではないと主張する者もいる。

同様な論争は、いわゆる”主流メディア”と呼ばれるアンチトランプ陣営と、オルタナティブな保守系ニュースメディアの間でも行われている。New York TimesやWashington Post、CNNやMSNBCといったケーブルTVネットワークなど、全国に散らばるアンチトランプ主流メディアは、一斉にトランプ大統領が敗北を認めるよう要求していた。c

これらアンチトランプ陣営の声は、このアメリカ史上最大の政治スキャンダルかもしれない事実を暴こうとする人々を、同様に、特に自分達の組織の内部において、非難し、信用を失墜させていた。FacebookやTwitter、Youtubeといったソーシャルメディアも同様に、この選挙結果に疑問を唱える者に対し、積極的かつ容赦ない検閲をしている。

対照的に、アメリカの捕手運動に関連するオルタナティブニュース系は、明るみに出てきた不正や恣意的報道などに対し、広範かつ綿密な報道を行っている。Steve Bannon's War Room Pandemic⁶やJohn Solomon's Just the News⁷、Raheem Kassam's National Pulse⁸、Newsmax⁹、One America News Network¹⁰等々、事実と速報を求めるアメリカ国民はこれら代替報道によってしか重要な情報が得られない状況である。

アメリカ国民が民主党やアンチトランプメディア、ソーシャルメディアの提供する情報を鵜呑みにしていない事実は世論調査で明らかである。例えば、最近のRasmussen poll: “共和党員の62%が、民主党が選挙を盗んだ可能性が高いと答え、また無党派層の28%、民主党員の17%も同じ見解を有している。¹¹

もし実際にバイデンの就任式後に選挙が不当に盗まれたとする決定的な証拠が出てくれば、我々は国家として、偉大なる合衆国の中枢が不安定なものになるという重大なリスクを背負うことになる。

別の言い方をすれば、もし世界史上最大の民主国家が自由かつ公平な選挙を行うことが出来ず、また主流メディアが選挙結果に疑問を唱える数々の証拠に十分な調査をしないならば、我々の知っている民主主義と合衆国は消滅する。ゆえに、この問題の真相を究明することは非常に重要であると考えられる。そしてそれが本レポートの目的である。

II. 6つの激戦州にまたがる6つの策謀

本レポートは2020年大統領選において、民主党候補ジョー・バイデンが僅差でリードし、戦いが続く6つ激戦州の公平性と正当性を評価するものである。多くの注釈が記載されているように、この評価に使用された証拠には50以上の訴訟や司法判決、数千の宣誓供述書や宣誓書、様々な州の公聴会での証言、シンクタンクやリーガルセンターに公表された報告書や分析、映像や写真、パブリックコメントや直接の証言、広範な報道などが含まれている。

これらの証拠の評価と分析から、6つの激戦州 - アリゾナ、ジョージア、ミシガン、ネバダ、ペンシルバニア、ウィスコンシン - にまたがる6つの選挙不正の手法が特定され、評価された。この6つの策謀とは違法な有権者の不正 (outright voter fraud)、票の誤処理による不正 (ballot mishandling)、疑わしきプロセスの不正 (contestable process fouls)、平等保護条項違反による不正 (Equal Protection Clause violations)、投票機の不正 (voting machine irregularities,)、統計的異常に見る不正 (significant statistical anomalies) がある。

Table 2で示される表はそれぞれの激戦州が6つの策謀のどれを採用したかの概要を示している。第一列には不正の6つの策謀、バイデンの勝利に必要な票のマージン、選挙不正に用いられたであろう不正票の推測を示している。また2列から7列はそれぞれの州での策謀を採用したかを示している。

表のチェックマークはそれぞれ特定の選挙不正に関する証拠が大量に存在することを示し、星マークは少なくとも一定の証拠があることを示している。

Table 2: 2020年大統領選挙において、争点となる6州にまたがる不正

	ARIZONA	GEORGIA	MICHIGAN	NEVADA	PENNSYLVANIA	WISCONSIN
Outright Voter Fraud	✓	✓	*	✓	*	✓
Ballot Mishandling		✓	✓	✓	✓	✓
Contestable Process Fouls	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Equal Protection Clause Violations	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Voting Machine Irregularities	✓	✓	✓	✓	✓	*
Significant Statistical Anomalies	✓	✓	✓	✓		✓
Biden "Victory" Margin	10,457	11,779	154,188	33,596	81,660	20,682
Possible Illegal Ballots	>100,000	>400,000	Unknown	>100,000	>600,000	>200,000

✓ = Wide-Spread Evidence * = Some Evidence

この表からは2つの重要なポイントが浮かび上がる。第一に、6つの激戦州では6つの重大な不正がほぼ同様に存在するという事実である。アリゾナ州だけが明らかな**票の誤処理による不正 (ballot mishandling)**の証拠がない一方、ペンシルバニアでは**統計的異常に見る不正 (significant statistical anomalies)**が見られない。それ以外は、Table 2はチェックと星に埋め尽くされている。

第二に、7項目のバイデンの勝利数マージンと8項目の不正疑惑のある投票の数を比較した時、6州のうちの5州で疑惑票がバイデンの勝利マージンを大きく上回っているという結果である。

例えば、ネバダにおけるバイデンの勝利マージンは33,596票であるが、疑惑票の数はその3倍以上もある。アリゾナではバイデンの勝利マージンは最も小さく10457票であるが、疑惑票はその10倍以上であった。このバイデンに対する疑惑票は、ジョージアではさらに大きなものとなっている。

ミシガンのみこのルールの特例となっている。これは本当に例外であるという訳ではなく、ミシガンにおける様々な不正がどれほどの疑惑票を生み出したか、十分な推定がまだ成されていないからである。

この表に基づき、アメリカ国民は、ドナルド・J・トランプから選挙が盗まれたか否か、答えを知る必要がある。就任式までに徹底的な調査を行わなければ、多くのアメリカ人が違法のバイデン政権として薄汚れたものを感じるものとなるだろう。

本レポートの次の6つのセクションでは、不正選挙の6つの策謀のそれぞれの詳細を検討する。

III. 違法な有権者の不正(outright voter fraud)

違法な有権者の不正は大規模な偽造票の製造、賄賂、死者による投票や犯罪者、不法滞在者による投票、複数回数えられた投票用紙、州外の不法な投票者からなる。Table 3は激戦州の6州で行われたとされる様々なタイプの違法な有権者の不正を示している。

Table 3: 2020年大統領選における違法な有権者の不正

	ARIZONA	GEORGIA	MICHIGAN	NEVADA	PENNSYLVANIA	WISCONSIN
Bribery	✓			✓		
Fake Ballot Manufacturing & Destruction of Legally Cast Real Ballots	✓	✓		*	*	
Indefinitely Confined Voter Abuses		*			*	✓
Ineligible Voters & Voters Who Voted in Multiple States	✓	✓		✓		
Dead Voters & Ghost Voters	✓	✓	*	✓	*	
Counting Ballots Multiple Times			*	*	*	✓
Illegal Out-of-State Voters	✓	✓		✓	*	

✓ = Wide-Spread Evidence * = Some Evidence

この図から6州で様々なタイプの不正が存在することが分かる。網羅的なものでなく、例を用いることで、これらのタイプの不正をより正確に定義してみよう。

賄賂

不正投票における賄賂とは、有権者登録や特定の候補者への投票など公的行為と引き換えに、不正な勧誘、金銭の移転、受諾することを意味する。¹² 少なくともネバダにおいて、そのような贈収賄が行われたという実例がある。

ネバダの件で驚くべきことは、連邦贈収賄法を無視していることである。米国南西部の州ではバイデンキャンペーンが盛んであり、ネイティブアメリカン達は自分達の票を金銭ではなくVSAギフトカードや宝石、その他”スワッグ”と交換したようである。Epoch Timesによると、そのような買収スキームはアリゾナ、ウィスコンシンを含む他の8州でも行われたとある。¹⁴

偽造票の製造と法的根拠のある本物の票の破棄

偽造票の製造とは特定の候補者のために投票用紙を偽造することである。投票用紙を偽造したことを疑わせる最も憂慮すべき例としては、トラックドライバーの宣誓供述書が挙げられる。彼はニューヨークで投票用紙の入った大きな箱を拾い、ペンシルバニアの投票所に届けたと語っている。¹⁵ これには100,000票以上が関わっており、偽造票だけで激戦州をバイデンに勝たせる十分な数がある。

同様にペンシルバニアにおいても、選挙作業員が安全ではないUSBフラッシュドライブを用いて、異常なほどに大量の票を集計機に投票していたとする宣誓供述書と写真がある。集計結果と投票機にスキャンされた郵送票との間に相関はなかった。¹⁶

バイデンのために偽造された投票用紙のケースの最も顕著な例は、ジョージア州アトランタのステートファームアリーナだろう。犯人の可能性のある人物が監視カメラの映像に映っていたのである。

またこの例では、投票監視員やオブザーバーだけでなくメディアも、真夜中の不審な水漏れの後、退去させられたという話がある。集計所から人がいなくなった後、数人の選挙管理者がドレープのかかった机の下から大量の票の入ったボックスを取り出す。そして彼らはおそらく数万規模と思われる偽造票を集計するのである。この投票用紙が処理された後、集計後にバイデンの票が大幅に急増(バイデンジャンプ)したことが明らかになっていることに注目したい。¹⁸

犯罪の可能性のある決定的な証拠と思われるにも関わらず、アンチトランプメディアの間でこれらの疑念を鎮火させる報道がなされた。これら誤魔化しのストーリーでは、疑惑の箱は正規に認可された投票箱であり、メディアのオブザーバーは退去など求められておらず自分達で立ち去ったのであり、またオブザーバーがいない場合でも投票を数えることは完璧に問題がないというものである。¹⁹ 少なくともそう主張する。

当然であるが、これらの事件はジョージア州司法長官や連邦司法省で十分に調査されるべきである。しかしそのような調査が行われているかどうかは不明である。一方で、適切な説明がされていないこのビデオテープは選挙の公平性と正当性に疑問を投げかける風潮を助長している。

最後に、合法の投票が破棄される可能性がある例として、アリゾナ地区の連邦地方裁判所に提出された裁判例からの申し立てがある。原告は、75000枚以上の不在者投票用紙が実際に返却されたにも関わらず、未返却と報告されたと主張する。これら不在者投票用紙は失われた、あるいは破棄され(トランプ氏の投票用紙破棄の申し立てと一致)、選挙作業員や他の第三者が記入した白紙の投票用紙と交換されたのだと主張されている。

²⁰

無期限に封じられた投票者への不正行為

無期限に封じられた投票者とは、高齢や何らかの障害で直接投票することが出来ない有権者のことを言う。この無期限に封じられた投票者に関連する不正行為には2つのタイプがある。

1つは高齢者や病人の身分や投票権への乗っ取りである。例えば、ジョージアにおいて、老人ホームに入居している高齢男性の家族は、男性の同意無しに男性の有権者登録のIDで郵送投票用紙が要求され、提出されていたことを発見した。²¹ ペンシルバニアでも同じような状況があり、ダウン症の娘をもつ二人の両親が投票へ行ったところ、娘の同意無しに郵送投票用紙が要求され、提出されたことを発見している。²²

無期限に封じられた投票者への不正のもう一つは遙かに悪性のもので、少なくともウィスコンシンで見られたものは重大である。いくつかの法廷の申し立てで重要なのは、“無期限に封じられた投票者”として登録された”不誠実な有権者”が意図的に”ウィスコンシン州の選挙法を破り、写真付き身分証明書の要件を回避した”というものである。

この不正は、ある報道によると、“デーブ郡とミルウォーキー郡の書記官が州の写真付き身分証明の要件を回避する方法として、無期限に封じられた有権者となることを奨励する助言を行った後に起きた、”とある。²³ トランプ側はこれをはっきりと、不正への公然の招待状であると非難している。そして、無期限に封じられた投票者として登録されたウィスコンシン州の有権者の話や写真を見る限り、彼らは結婚式に出席し、バイクを乗り回し、休日を満喫し、その登録要件を満たす状況ではなかったようである。²⁴

ここにこのタイプの選挙不正における重要な点がある。無期限に封じられた投票者の定義が拡大されたが、- この定義はウィスコンシン最高裁判所において法的に正しくないと認定されているが²⁵ - その無期限に封じられた投票者の数は2019年においては7万人以下であったが、2020年には20万人に激増している。²⁶ この無期限に封じられた投票者の130,000人以上の増加は、ウィスコンシンにおけるバイデンの勝利マージンの実に5倍以上にも上っている。

無資格の投票者と、複数の州で投票した有権者

無資格の投票者とは、無資格と見なされた重犯罪者、未成年、室生特の有権者、不法滞在の外国人、州外の不法な有権者、住所として郵便ポストを不法に使っている投票者を指す。²⁷ トランプ陣営の法務チームが提出した法廷報告書で、主席弁護士レイ・スミスは2020年のジョージアでの選挙で投票した7万人以上の無資格者のリストを提出した。²⁸ またジョージアでは2万人以上の人々がジョージア州政府に住居移転届を提出したり、州外への移動を示唆している。しかしこれらの明らかに無資格である州外の有権者は、2020年の選挙でも有権者名簿に登録されたまま投票したようである。²⁹ 無資格の州外の有権者に関する追加のデータとして以下のものがある。他州の80から100名の自称Black Lives Matterの関係者がペンシルバニアで投票したことを認めている。³⁰

複数の州にまたがって投票している有権者については、ある訴訟で、他の州で投票した有権者の約15000票の郵便投票や不在者投票がネバダで受理されたとある。³¹ ここで注意すべきなのは、ネバダにおいて、選挙員が投票に来た有権者をチェックする際、彼らが投票資格の適格性の証明として持っているべきカリフォルニアあるいはネバダの投票身分証明があるかどうか、一貫した手続きがなかったことである。³²

死者あるいはゴーストの投票

広範囲にわたる証拠により、複数の激戦州で死者の有権者から驚くほど多くの投票が行われており、ブルース・ウィルスの映画”シックスセンス”の選挙のようだという皮肉を生みだしている。『ぼくには死んだ人が投票に行くのが見える』

例えばペンシルバニアでは、トランプキャンペーンが実施した統計分析で有権者名簿と公開された死亡記事を照合したところ、8000人以上の死亡が確認された有権者が郵送投票を行うことに成功していた。

ミシガンでは、宣誓書の中で提供された実体験報告で、デトロイトの投票所のコンピューターオペレーターは1900年に誕生日を持つ有権者の何千もの投票用紙に、投票集計して字から名前と住所を手動で入力していた。³⁴ ネバダにおいては、3年半前に死んだ妻が2020年11月2日の郵便投票に成功したことを彼女の夫が確認している。³⁵

ここで、死者による投票がシカゴ市長のリチャード・デイリーとシカゴの投票マシンにより、リチャード・ニクソンから勝利を奪う上で重要な役割を果たしたという事実に注目しておくといいかもしい。ある報告によると3000票以上が死者の名前で投じられ、31000以上の人間が市内の異なる場所から2回投票したとある。イリノイにおけるケネディ大統領の勝利マージンは9000票に満たなかった。

ゴーストによる投票に関して、ゴーストの投票者とは登録した住所にもはや住んでいない有権者の名前で投票用紙を請求し、提出した者を指す。例えばジョージアでは、2万人以上の不在者や早期投票者 - これはバイデンの勝利マージンの2倍である - が州外に転出した後に投票したと言われている。³⁶ ネバダでは、ある選挙員の報告によると、1日あたり50枚もの投票用紙がすでに住民が退去した家に届けられているという。³⁷

複数回カウントされる票

票を複数回数えることは、特に大量の票が電子集計機に繰り返しスキャンされ、繰り返し集計されることで起きる。また同じ人が同じ日に何度も投票することでも起こりうる。これら”投票用紙の詰め込み”の証拠は、激戦州の全ての州に存在する。

例えばウィスコンシンでは選挙員が集計機に複数回票を通してるところを目撃されている。³⁸ ミシガン州ウェイン郡では、共和党の選挙監視員が、投票集計機に大量の票が3から4回スキャンされているところを目撃している。³⁹

ペンシルバニアでは選挙員が、ある女性が同じ日に外見を変えて二度投票する姿を目撃している。⁴⁰ また別の選挙員は、投票所の一角の投票列に並んでいた人々が投票後、その建物の反対側にある別の投票所に来ているのを目撃している。⁴¹ さらに別の選挙員は、選挙日に投票機で2回投票する女性を目撃した。⁴²

IV. 票の誤処理による不正(ballot mishandling)

票の誤処理による不正は2020年大統領選の2番目に大きな規模を持つ不正の軸である。Table 4に示す通り、これは激戦州のほとんどにまたがる問題である。この問題について、まずは有権者の身元確認が適切に行われていなかったことから見ていこう。

Table 4: 激戦州における票の誤処理による不正

	ARIZONA	GEORGIA	MICHIGAN	NEVADA	PENNSYLVANIA	WISCONSIN
No Voter I.D. Check			*	*		✓
Signature Match Check Abuses		✓		✓	✓	
“Naked Ballots” Lacking Outer Envelope			*		✓	
Broken Chain of Custody & Unauthorized Ballot Handling or Movements		✓	✓	✓	✓	✓
Ballots Accepted Without Postmarks & Backdating of Ballots			*			*

✓ = Wide-Spread Evidence * = Some Evidence

投票者のIDを未チェック

選挙に正当性を与えるため、有権者が直接投票に来た時、選挙員が有権者の身元と登録を適切に確認することは非常に重要である。しかし激戦州のいくつかで、適切な身元確認が行われていなかったという証拠が存在する。

例えばミシガンでは、投票所の議長が、有権者証明を提示せず、免許証のコピーだけで投票することを許可していた。⁴³

ネバダでは、選挙員が、登録を希望するが適切なネバダの身分証明あるいは運転免許を持っていない人々に以下の助言をするよう指示されていた：未登録の方は駐車場に出て、2021年1月までに身分証明としてネバダ州運転免許を取得するよう陸運局に予約すること。その後、陸運局の予約確認書を紙かデジタルの形で持参すれば登録できる、と。⁴⁴

署名照合の不正

票の集計で、郵送票や不在者票の封筒の署名が、投票者の登録記録と一致しているかどうかを法的に確認することは非常に重要である。⁴⁵ しかしネバダ、ペンシルバニア、特にジョージアで署名照合の不正が大きな問題となっていることは注目したい。

ジョージアでは州法に反し、州務長官は民主党との間に、署名照合を2回ではなく1回に弱める同意協定を締結した。この違法な証明照合の弱体化はジョージアの120万以上の郵送票に疑問を投げかける結果となった。⁴⁶

署名照合の問題が浮上したのはジョージアだけではない。ネバダの法律では、機械でなく人の目で全ての署名と票を確認することになっている。しかしクラーク郡投票者登録所では、Agilisという欠陥のある署名照合マシンを用いてそのチェックを行った。⁴⁷ 後述するように、ネバダの法律に反して人に代わり機械が作業を行う問題は、Agilisのシステムが許容できないほど低い精度を持っている事実からさらに悪化し、不正票がチェックをすり抜けることを容易にしている。⁴⁸

署名照合問題はウィスコンシンでも起こっており、郵送投票のため義務付けられている有権者情報の証明が州法に反して削減あるいは排除されていた。ある訴訟で指摘されているが、この変更は”州議会の権限を損ない、郵送票の不正を容易にすることで選挙の安全性と正当性を低下させ、ウィスコンシン州選挙法の明確な条項に抵触する標準以下のルールを作り、州全体で不在者票を一律に扱うことを妨げる”ものだった。⁴⁹

封筒のない“むき出しの票”

むき出しの票とは、署名の書かれた封筒を欠く郵送票や不在者票を指す。投票者の身元確認をする唯一の方法である封筒がない場合、むき出しの票を受理するのは違法である。

むき出しの票を違法に受理する行為は特にペンシルバニアで顕著であり、民主党員として登録される州務長官長官⁵⁰による”むき出しの票”もカウントしてよいという指導の結果とる。

このような指導の発行は州法に違反するが⁵¹、民主党員では郵送による投票率が異常に高いため、バイデンの票を増やす民主党政治家の露骨な試みであるように見える。この事件は特に非難されるべき事態であり、ペンシルバニア最高裁がこの指導を却下すると、州務長官は、不適格な郵送票あるいは不在者票を選挙担当者がカウントしないよう指示する新しい指導の発行を拒否している。⁵²

不十分な過程管理と不正票の取り扱い/移動

投票された票の過程管理は公正な選挙の要である。票が適切な監視や監督なしに、不正に転送、操作、移動されると、過程管理がなされなくなってしまう。⁵³

過程管理の問題は全ての票に適用されるが、不十分な管理のリスクは郵送票や不在者票で特に高い。これはこれらの票が多くの手を経なければならないから起こる。

2020年大統領選において、監視されてない投票箱(多くは違法)の使用が高まったことから、この不十分な過程管理のリスクは高まった。また、第三者が有権者から票を取得し、投票箱に入れたり、選挙管理者に直接届ける行為、いわゆる”票の収穫”も増加した。

投票箱と票の収穫は悪質な者に不正票を選挙プロセスに挿入する機会を提供する。これが非常に深刻な問題であるのは、**BlackBoxVoting.org**の観察からも明らかである。“法廷では、過程管理の違反は証拠を認めることの拒否や、告発を却下する結果になる可能性がある。選挙においては、過程管理の違反は’不可逆的な不確実性’をもたらし、裁判所は選挙のやり直しを命じることにもなる。”⁵⁴

投票箱の問題の例として、ペンシルバニアでは州法に違反して、票はナザレ投票所の投票箱に投函された。⁵⁵ 同様にペンシルバニアで、ナンバープレートのないジープから降りてきた男が監視のない投票箱から票を取りだし、集計センターへ持ち込むところを映像と写真に撮られている。同じ男が空の投票箱を持って戻ってくるところも確認されている。⁵⁶

ウィスコンシンでは、州の選挙委員会は不在票を集めるため、違法に500個の投票箱を設置した。しかし、これらの投票箱は民主党員の登録の多い都市部に不釣り合いに設置されており、バイデン候補に有利な状況であった。注：ウィスコンシンで投票箱を使用することはいかなる場合であっても違法である。従って、投票箱を介した票は選挙にカウントされてはならない。⁵⁷

票の収穫の例として、この場合はその初期段階を指すが、ペンシルバニアの老人ホームの住人から25000票が同時に要求された件がある。⁵⁸

過程管理の問題の追加の例として、以下のものもある。ウィスコンシンの中央集計所に不在者票の大きな箱がすでに封筒を開けられて到着した。これはこれらが改竄された可能性があることを示す。⁵⁹にも関わらず、これらの票は集計された。

ウィスコンシンではまた、選挙員が白紙の票の入ったバッグが監査なしに車両に積み込まれ、走り去るところを目撃している。⁶⁰ また先に言及された例では、ニューヨークからペンシルバニアへ大量の偽造票を輸送したというトラックの運転手の直接証言もある。

票の不当な扱いや移動に関する最後の注意点として、違法な投票集計者の問題がある。彼らは投票用紙を数えることを法的に認可されてない、あるいは証明のない人々である。

奇妙なケースとして、2019年カマラ・ハリスキャンペーンに従事した公式カメラマン⁶¹が、ジョージア州フロイド郡の票のスキャンに関与していた事が疑われていることである。投票集計者は大統領選挙の候補者といかなる関係を持ってはならない。

消印なしに受理される票と、票の遡及処理について

全ての激戦州において、選挙員が消印のない郵送票や不在者票を集計することは州法違反である。また票の消印を遡らせ、受理と集計の期日に間に合ったと見なされるようにするのも違法である。いくつかの激戦州でこの不正行為の証拠が見られている。

例えばウィスコンシンでは、ある宣言によると、ミルウォーキーの米国郵政公社 (USPS) の従業員は繰り返し2人の管理者から遅れて到着した郵送票の日付けを改竄して集計するよう繰り返し指導されていた。⁶² また、ウィスコンシンにおいてUSPSは少なくとも10万票の日付けが改竄されていると主張されている。⁶³

同様にミシガン州デトロイトでも裁判で指摘されているように、選挙員が不在者票の日付けを改竄して集計できるようにするよう票集計者に指示を出していた。⁶⁴ ある選挙員は、ミシガンで消印のない票が集計機を通過しているのを目撃している。⁶⁵

V. 疑わしきプロセスの不正(contestable process fouls)

装填となるプロセスの不正とは2020年大統領選の第三の軸となる不正である。このプロセスの不正は、Table 5で示した通り、激戦州の至るところで様々な形式で発生する。

Table 5: 激戦州における、疑わしきプロセスの不正

	ARIZONA	GEORGIA	MICHIGAN	NEVADA	PENNSYLVANIA	WISCONSIN
Abuses of Poll Watchers & Observers	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Mail-In & Absentee Ballot Rules Violated Contrary to State Law		✓			✓	✓
Voters Not Properly Registered Allowed to Vote		✓	*	✓	*	✓
Illegal Campaigning at Poll Locations			*		*	*
Ballots Cured by Poll Workers or Voters Contrary to Law	✓	✓	✓	✓	✓	✓

✓ = Wide-Spread Evidence * = Some Evidence

選挙調査員と監視員の不正

選挙の公平性と正当性の中心にあるのは、票の受理、開封、集計を監視員が監視するプロセスにある。Table 5を見れば、選挙員と監視員の不正が激戦州の全てで行われていたことが分かる。

ジョージア⁶⁶、ミシガン⁶⁷、ペンシルバニア⁶⁸の選挙調査員と監視員は、選挙の裁判官や他の選挙員により、投票集計センターへの立ち入りを拒否された。これは適切な証明書や身分証明をしたにも関わらず起きたのである。

ジョージア⁶⁹、ミシガン⁷⁰、ネバダ⁷¹、ネバダ⁷²では、共和党の選挙調査員は閉鎖されたエリアに追い込まれ、限定された場所しか監視できなかった。いくつかのケースでは、この行為は地元の法執行機関により強制されて起きたものである。

これら4つの激戦州において、共和党の選挙調査員は投票集計人から不当に長い距離を置いて立つよう命じられている。ミシガンでは、おそらくこの監視不正の中では筆頭といえるものだが、選挙員が票を処理、集計する部屋の窓にポスターボードを張り、視界を遮った。⁷³ ペンシルバニアでは、数万の票が選挙監視員が監視できない奥の部屋で処理された。⁷⁴

選挙調査員や監視員こそが公平な選挙プロセスの最前線を守る役割を持つため、これは非常に深刻な問題であると言える。彼らの仕事は全ての票が適切に処理され、それに応じて集計されることにある。彼らは以下の問いに答えを出せるだろうか。署名照合のプロセスは行われていたか？各投票用紙は封筒があったのか、それともむき出しのままだったのか？票が複数回、集計機を通ることはなかったか？

選挙調査員や監視員が視界を遮られ、あるいは許容できない距離からの監視を強いられた時、彼ら監視者は上記の問いに答えられなくなる。ゆえに、彼らは重要な監視の使命を果たすことが出来ないのである。

州法に違反した郵送票と不在者票

ジョージアでは選挙日の180日以上前に不在者票を申請した30万人以上の人投票を許可された。これは明らかな州法違反である。⁷⁵

ペンシルバニア及びウィスコンシンにおいて、民主党の選挙管理者が選挙日後に郵送票と不在者票を一方向的に受け入れるよう行動した。州の共和党員はこれを州法違反だと主張している。

ペンシルバニアにおいて、不在者票と郵送票が選挙日の3日後まで受理された。⁷⁶ 11月7日、最高裁は法的な異議申し立てを見越し、11月3日を過ぎて到着した約1万票の不在者票及び郵送票を選挙日に到着した票と区別するよう命じた。⁷⁷ この指示にも関わらず、選挙調査員は11月7日、デラウェア郡で州法に反し、前日の夜に届いた票が選挙日に届いた票と区別されなかったことを報告した。⁷⁸

ウィスコンシンの州法では早期投票を許可していない。にもかかわらず、民主党の本拠地であるウィスコンシン州マディソンの市職員は200カ所以上の”公園の民主主義”違法投票所の設置を支援した。

これら不法な投票所はバイデンキャンペーンで推進し、支持されていた。これらは不在者票の証明を提供し、あらゆる点で合法の投票所のように振る舞った。さらに、これらの投票所は、直接あるいは不在者投票に法令で認められた、選挙に先立つ14日間の限られた期間外の票も受け取っている。これは明らかな州法違反だった。⁷⁹

適切に登録していない、投票資格のない投票者

選挙員の仕事の1つは直接投票が法的に登録され、本人であることを確認することである。6つの激戦州のうち、少なくとも3つでこの仕事が効果的に行われていない可能性がある。

例えばウィスコンシンでは、選挙調査員が投票を申し込んだ人々の資格に異議を唱えたり、そのような人々の資格証明を要求することを当局が拒否している。⁸⁰ ジョージアでは州の記録に投票登録がされていない2000人以上が投票している。⁸¹

ペンシルバニアでは、ある投票調査員は投票員が投票登録簿に名前のない人々を、調査員に監視されない別の場所に連れて行くところを目撃している。そこでは明らかに、未登録の投票者が選挙判事と会い、以下の発言をされたと言われている。”戻ってこれが君の名前だと言えれば投票できる。”⁸²

投票所での違法キャンペーン

選挙員は政治的に中立でなければならない。選挙員が投票所で片方の候補者に偏見を示す時、それは州法に違反している。残念ながらその法はミシガン、ペンシルバニア、ウィスコンシンでは繰り返し無視された。

例えばペンシルバニアでは、選挙員は”Voter Protection”と呼ばれるグループの服を身に付けていた。このグループは100%民主党が出資する、ペンシルバニアで選挙区画運動に専念する政治活動委員会である。その服を身に付けることは、明白に違法な選挙運動である。⁸³

ミシガンでの同様の違法な選挙運動では、選挙員はBlack Lives Matterシャツを着て、オバマ大統領のトートバッグを所持していたものがある。⁸⁴ さらに、バイデンとオバマのキャンペーンシャツを着た選挙員は票集計フロアに入ることも許されていた。⁸⁵

ウィスコンシンではバイデンキャンペーンの代表者がクリップボードを掲げ、投票に向かう人々に話しかけていた。彼らは明らかに選挙運動禁止区域にいた。選挙員は、監視員の反対にも関わらず、これら違法な選挙運動を摘発することはなかった。⁸⁶

法に反して選挙員や投票者に修正される票

特定の状況下で、選挙員や投票者は間違いや不一致のある投票用紙を修正することがある。これは”票の修正”と呼ばれる。

19の州で選挙員は、票に間違いや不一致があると投票者に呼びかけ、票が正しく集計されるよう訂正あるいは間違いを修正するよう呼びかける義務がある。⁸⁷ しかし、修正を認めてない州では、署名の欠落や不一致のある票は破棄されなければならない。⁸⁸

ペンシルバニアでは州法に反し、選挙員は投票者が票の修正あるいは”訂正”をすることを許していた。⁸⁹ ある訴訟の提出書類によると、ペンシルバニアの民主党が優勢な郡では選挙日に先立つ公式選挙調査の事前活動に参加し、”郵送された票に不備がないかどうかを確認した。”⁹⁰ このような不備には”内側の秘密保持封筒や、外側の申告封筒の署名が欠けていること”が含まれていた。投票者達はその後、票を修正できると通知される。これは明らかな州法違反である。⁹¹

違法に修正された票の例は他にもある。ウィスコンシンでは選挙監視員の反対にも関わらず、数万票が点検され、訂正あるいは修正された。⁹²

ペンシルバニアでは、選挙員は約4500票に様々な誤りを見つけ、それを仕分けた。その後、選挙員はそれら4500票を記入し直し、集計機で読めるようにした。これは明らかな州法違反である。⁹³

ミシガンでは選挙員はが票の外側封筒の日付けを改竄し、集計できるようにした。⁹⁴ ミシガンの選挙員はまた”投票者の意向である”と信じるとおりに空白票に記入し、郵送票や不在者票を”修正”した。⁹⁵

VI. 平等保護条項違反による不正(Equal Protection Clause violations)

平等保護条項とは米国憲法修正第14条の一部であり、アメリカ合衆国の柱の1つである。この平等保護条項は、合衆国はどんな市民に対しても、法による平等な保護を否定してはならないと規定している。⁹⁶

Table 6 に示すのは、2020年大統領選における3つの主な平等保護条項違反である。表が示す通り、これら違反は激戦州の全てで起きている。

Table 6: 激戦区で見られる平等保護条項の違反

	ARIZONA	GEORGIA	MICHIGAN	NEVADA	PENNSYLVANIA	WISCONSIN
Higher Standards of Certification & I.D. Verification Applied to In-Person Voters	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Different Standards of Ballot Curing	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Differential & Partisan Poll Watcher Treatment	✓	✓	✓	✓	✓	✓

✓ = Wide-Spread Evidence * = Some Evidence

直接の投票者に適用される認証と身分証明書の高い基準

第一の違反は、直接の投票者は郵送票や不在者票と比較して有権者認証や身分証明に高い基準を求められることである。事実上、トランプ大統領へ投票する人々は郵送票や不在者票より直接投票を選ぶ方が遙かに多かったため、これら高い基準はバイデン側に有利となった。郵送票や不在者票は全国的にバイデン候補に大きく偏っており、州によっては3/4がバイデン票であった。⁹⁷

ここで注目したいのは、不正行為と票の誤処理のほとんどは郵送票や不在者票に力を注いでいたという点である。ゆえに、これらの有権者への調査精度が低いほど、トランプと比較してバイデンへの不正票が滑り込みやすくなる。もう一つ注目したいのは、この平等保護条項の違反は選挙調査員が適切な監視を否定されてさらに可能になったという事実である。

この平等保護条項の違反の顕著な例としては、ジョージアとミシガンの件がある。ジョージアでは、直接投票に身分証明書が必要であり、ミシガンでは身分証明書なしなら仮投票しか認められなかった。しかし、ジョージアとミシガンにおいて、前回の投票ですでに登録を済ませている人であれば、郵送票に身分証明は求められなかった。

これらの手続きは不正のために改悪もされている。事実、選挙不正専門の犯罪者が、過去の選挙で投票したがここ最近の選挙では投票していない有権者を標的にしたという証拠がある。彼ら犯罪者はこのような投票に行く頻度の低い有権者になりすまして投票を行うが、捕まる可能性は極めて低い。しかし多数の宣誓供述書から、投票所に来たら記録上すでに投票は終了していると告げられ、帰らされた者も複数いる。そのような宣誓供述書はジョージアで少なくとも14も提出された。

追加の例として、ウィスコンシンでは封筒の所定の位置に証明署名のない郵送票が受理されている。⁹⁸ これらは直接投票波の基準を求められたら、無効になっていたであろう。

票の修正に対する異なる基準

平等保護条項の2つ目の主な違反として、これも激戦州の全てで見られるが、票の誤りを修正する(票の修正)うえで異なる基準が州内の異なる管轄区域間で適用されたことである。つまり、民主党員が多数を占める管轄区域では、共和党員の管轄区域よりも、票の修正が許可されるケースが拡大されることが多かった。

ペンシルバニアでは、民主党の郡と共和党の郡で票が修正される - あるいはされない - かどうかの処理方法に明らかな違いがあった。ペンシルバニアの州務長官キャシー・ブックバーは票の修正を許可する違法な指示を発行したが、少なくとも8つの共和党の郡はこの違法な指示に従わなかった。⁹⁹ 対して、共和党の郡はこの違法な指示のもとで票を処理した。¹⁰⁰

アリゾナでも直接投票と郵送票の扱いに明らかな差があった。郵送票は選挙日前に届けられた無効な票の”修正”あるいは”訂正”に5日間までの猶予があったが、¹⁰¹ 一方で例えばマリコパ郡の直接投票者は電子投票機の適切な扱いを知らない選挙員との対応を迫られた。これは数千の直接投票が修正されず、不備があるとされ、認められない結果となった。¹⁰²

党派別の選挙調査員への異なる扱い

ほとんどの州で政党の候補者と投票発行委員会は選挙調査員と監視員を任命し、票の集計プロセスを監督する。¹⁰³ これら選挙調査員と監視員は有権者として登録されており、投票所で職務を遂行できるよう選挙管理者に証明書を提示しなければならない。¹⁰⁴

このような公認の選挙調査員は政党の所属に関係なく、適切な距離からの監視が許されるべきである。しかし民主党の重要拠点であるウィスコンシン州デーデン郡やミシガン州ウェイン郡では、特にバイデン票が優勢であったが、ここでは共和党の選挙調査員や監視員は投票所への立ち入り拒否や嫌がらせ、脅迫にいたる等不当な扱いを受けている。

例えばジョージアでは公認の選挙調査員が、投票場にいる他の選挙員達が政党の所属を理由に調査員に話しかけないようにするという会話しているのを聞いている。¹⁰⁵ ペンシルバニアでは、共和党の選挙調査員は嫌がらせを受け、政党の所属を理由に投票場から追い出された。¹⁰⁶ ウィスコンシンでは、共和党の選挙調査員は、投票場に共和黨員は入れないという事実に基づき監視を妨害された。¹⁰⁷

注目したいのは、前のセクションで議論したように、公認の選挙委員への妨害に関連するプロセスの不正と、政党の所属の違いで起きる拒否や、嫌がらせ、脅迫などの保護条項の違反の不正に相乗効果があることに注意したい。

VII. 投票機の不正(2020 Election Voting Machine Irregularities)

全50州で票の集計に使用される機械とそのソフトウェアほどテクノロジーの発展が諸刃の剣であるという事実を突きつけるものはない。¹⁰⁸ 投票機器の種類には紙の票を処理する光学スキャナー、有権者が直接候補者を入力するために使う直接記録型電子システム、そして人が読むための票を作成する様々なマーキング装置がある。¹⁰⁹

2020年大統領選では、主に2つのタイプの投票機器の不正が疑われている。Table 7で示す通り、これらの不正は投票機の大規模なエラーと、不可解な票の入れ替え、バイデン側で顕著だった票の急増がある。

Table 7: 2020年大統領選における投票機の不正

	ARIZONA	GEORGIA	MICHIGAN	NEVADA	PENNSYLVANIA	WISCONSIN
Large-Scale Voting Machine Inaccuracies	✓		✓	✓		
Inexplicable Vote Switching and Vote Surges In Favor of Biden	✓	✓	✓			

✓ = Wide-Spread Evidence * = Some Evidence

投票機の大規模なエラー

この不正のほとんどは29州に投票機器を提供する、ドミニオン社が関与していると言われる。¹¹⁰ 批評家によると、ドミニオンのルーツはベネズエラの独裁者ウゴ・チャベスが選挙を支配する時に使用した活動に遡ると言われる。¹¹² ドミニオンはまたクリントン財団との関係も疑われ、ドミニオンの機器で使用されるスマートマチック社のソフトは反トランプのグローバルリストであるジョージ・ソロスとの関係も疑われている。¹¹³

ドミニオンとスマートマチックを巡る論争はさておき、機材のエラーに関する大きな問題の1つはAgilisと呼ばれる会社に行き着く。ネバダ州の民主党拠点であるクラーク郡の選挙管理者はAgilisの署名確認装置を使用し、13万人以上の郵送票をチェックした。

カーソンシティの地方裁判所に提出された訴訟によると、Agilisの装置は”メーカーが提案したよりも低画質”であるとされる。またクラーク郡選挙管理局の職員は、メーカーの推奨する基準以下まで精度を低下させ、検証プロセス全体を信頼性の低いものにした。¹¹⁴

検証テストでは、メーカーの設定ですでにAgilisの装置は低い精度を大幅に許容する状態であることが証明され、実に50%もの非一致率があった。言い換えれば、装置を通過する票の半分は検証が不可能であるということだ。そしてクラーク郡の職員は、精度をさらに下げていた。¹¹⁵

このケースに対する最後のコメントとして、広い範囲の法的問題があることが挙げられる。Agilisの装置は”選挙担当者による署名照合を完全に置き換えるために”使用されたという事実である。これはネバダの州法違反である。

法廷では以下の指摘もある。”ネバダの州法に反し、クラーク郡選挙管理局は、郵送票の30%の署名確認を人の目による名確認をさせることなく、Agilisの装置のみに確認させていた。”¹¹⁶

同じような問題がアリゾナ州の法廷にも提出され、Novus6.0.0.0というソフトが問題となっている。集計機が読み込む時に損傷していたり読み込めなかったりした票があったとき、Novusはそれらの票を修復するために用いられる。しかし、アリゾナ州共和党の議長ケリー・ウォードが提出した裁判で指摘がある通り、”装置の精度は余りに不正確で、しばしば投票先をひっくり返すことがあった。”¹¹⁷

不可解な票の入れ替えとバイデン票の急増

上記で述べたアリゾナのNovusの問題をさらに複雑にするのは、このソフトの精度が驚くほど低いからだけではない。監視員によると、不可解な票の入れ替えがあり、”そのソフトは誤ってトランプの2倍の頻度でバイデンに票を入れていた、”とある。¹⁸

大規模かつ不可解な票の入れ替えとバイデン票の急増の1つの例として、ミシガン州アントリム郡のケースがある。これは前述の物議を醸すドミニオン&スマートマチックの投票機のコンボに関連している。¹¹⁹ 共和党の拠点であるこの地域では最初にバイデン側へ6,000票が誤ってカウントされていた。この集計結果は有権者登録や歴史的パターンに反していたため注目を集めた。そして調べてみると、この6000票は実際はトランプ氏の票だったのだ。

その後アントリム郡の集計機に法化学的監査が行われ、ドミニオンシステムが実に68%ものエラー率を持っていることが判明した。¹²¹

ハッカーやドミニオン社に関連する悪質な外国勢力の存在が疑われているが、問題は外部からのインターネットアクセスの探知に役立つはずの記録はアントリム郡のシステムから消去されていたことである。これは投票記録の22ヶ月の保存を義務づけるミシガン州の州法に直接違反するもの¹²²だが、以前の選挙の情報は残っている一方で、今回の選挙の記録のみが消されていた。少なくともこの監査結果は、合衆国の他の州でもドミニオンシステムの徹底的な調査が必要であることを示している。

ジョージアではドミニオンの装置に、結果が変わるほど多数の“不具合”が認められた。中でも注目されたのは、バイデン票が2万票も急増する一方、トランプ票が1000票減少した変化だった。¹²³

VIII. 統計的異常に見る不正(significant statistical anomalies)

2020年大統領選は少なくとも4つの統計学的な異常が問題を提起している。Table 8に5つの激戦州で見られるこれら統計的異常を示す。票を見て分かる通り、ウィスコンシンとジョージアはこの統計的異常が多く、4つの異常のうち3つが存在している。ネバダとアリゾナは2つ、ミシガンでは少なくとも1つの異常がある。それぞれの統計的異常についてより詳細に考察してみよう。

Table 8: 激戦州に見られる統計的異常

	ARIZONA	GEORGIA	MICHIGAN	NEVADA	PENNSYLVANIA	WISCONSIN
Significant Changes In Absentee Ballot Rejection Rates From Previous Elections		✓		✓	✓	
Excessively High Voter Turnout (at times exceeding 100%)	✓	✓	✓	✓		✓
Statistically Improbable Vote Totals Based on Party Registration & Historical Patterns	✓					✓
Unusual Vote Surges		✓	*			✓

✓ = Wide-Spread Evidence * = Some Evidence

前回の選挙と比べ、郵送票・不在者票の否決率の異常な変化

郵送票や不在者票は様々な理由で否決されるが、これは全50州においては通常現象である。これらの理由には以下がある：署名がない、署名が一致しない、期限を過ぎての到着¹²⁴、投票者の身元を確認するための外封筒がない郵便票(むき出しの票)¹²⁵、あるいは投票者が投票用紙に不正確あるいは不完全な情報を書き込んでいた時である。¹²⁶

2020年大統領選において、バイデンはあり得ないほど高い割合で郵送票や不在者票を受け取っていた。偶然ではないかもしれませんが、ペンシルバニア、ネバダ、そして特にジョージアで、それらの票の否決率も大幅に低下していた。

例えばネバダでは全体の否決率は2016年で1.6%¹²⁷であったのに対し、2020年では0.58%となっている。¹²⁸ ペンシルバニアでは2016年は1.0%¹²⁹であったが、2020年には0.28%¹³⁰で事実上ゼロとなった。不在者票の拒否率が最も大きく変化したのはジョージアで、2016年に6.8%¹³¹であったのが、2020年にはたった0.34%¹³²にまで低下した。

この否決率の大幅な低下は激戦州の民主党選挙管理者が、郵送票や不在者票を低レベルのセキュリティチェックの対象とするために努力をしていることを示している。この州政府の行動や選挙システムを弄ぶ不正がバイデンに有利になるような結果をもたらした可能性があることは、単純な計算で説明できる。

2020年の選挙において、ジョージア選挙当局は1,320,154票の郵送票/不在者票を受け取った。もし票が2020年の否決率0.34%でなく、2016年の6.8%で否決されていたら、実際に否決された4489票でなく、81321票が否決されていたことになる。

控えめに仮定しても60%の郵送票と不在者票がバイデンに投票されたとすると¹³³ この異常な否決率の低下はバイデンに16,264票渡ったことになる。これはジョージアにおけるバイデンの勝利マージン以上の票数である。

異常に高い投票率 (時に100%以上)

登録されている、あるいは資格のある有権者以上の票が投票された時、不正行為が行われている可能性が高い。2020年大統領選でも、6つのスイングステート全てで異常に高い投票率が確認された。

この問題を分析するにあたり、重要なのは当日登録を実施している州としていない州を分けることである。当日登録を実施している州は投票率が100%を越える可能性がある。しかし、当日登録をしていない州では不正無くしてそれが起きることはありえない。

では当日登録をしていないアリゾナについて考えてみよう。MITで研修を受けた数学者の証言によると、バイデン候補はドミニオン投票機にプログラムされたアルゴリズムにより、州での勝利を導くためマリコパ郡の民主党票が130%に増加されて受け取っている可能性がある。¹³⁴

ミシガンでは当日登録を認めているが、それでも投票率は異常に高かった。ここでもドミニオン投票システムが関与している。

サイバーセキュリティ専門家であり元NASAのアナリストであるラス・ラムスランドは、ドミニオン投票システムが使用されるミシガン州ウェイン郡の47の管区のうち46の管区で96%以上の投票率を示し、そのうち25の管区では投票率が100%を越えていたと証言した。¹³⁵

ウィスコンシンでは当日登録を許可しているが、2016年に比べて異常に高い投票率が報告されている。例えばミルウォーキーでは2016年75%だった投票率が、2020年では84%に上昇している。¹³⁶ その327の投票区のうち、90カ所で投票率が90%を超えていた。¹³⁷

政党登録と歴史的パターンから見て統計的にあり得ない投票数

2020年大統領選は歴史的なパターンと一致して党派色の強い投票が特徴だった。原則として、共和党の強い管轄地域はトランプ大統領に、民主党の強い管轄区域はバイデンに投票した。

しかしいくつかのケースにおいて、党派的、歴史的パターンの崩れたところがあった。そしてそのような場所こそ、明白な不正や装置のエラー、操作があった可能性が高いのである。

このような統計的にあり得ない投票の一例はアリゾナ第五下院選挙区の結果に見られる。クイーンリーク郊外のある地区で、トランプ大統領への投票率が2016年と比べて67.4%から58.5%へと大きく低下した。¹³⁸ これは重複投票の数が”異常に多い”ことに起因する。¹³⁹

異常な投票の急増

ジョージアやミシガン、ウィスコンシンで票の異常な急増が11月4日の非常に早い時間帯に認められた。New York Timesの選挙正当性プロジェクトの分析により選挙当日のデータが公開され、バイデンに特に多い割合で投票の”ジャンプ(spike)”が見られた。このバイデンジャンプや票の急増は不正票をカウントした事から起きた可能性が高い。

例えばジョージアでは11月4日1:34AM、バイデンに136155票が追加され、トランプ大統領には29115票が追加された。¹⁴⁰ ミシガンでは11月4日3:50AMにバイデンへ54497票、トランプ大統領に4718票が追加された。¹⁴¹ ウィスコンシンでは11月4日3:42AM、バイデンに143379票、トランプ大統領に25163票が追加された。¹⁴²

IX. 立法府・司法府の州ごとの分析と警鐘を鳴らすことの失敗

幸せな家庭はどれも似通っているが、不幸な家庭はそれぞれの不幸を持つ。 .

『アンナ・カレーニナ』 レフ・トルストイ

このレポートで報告された通り、6つの激戦州の全てがほとんど、あるいは全ての6つの策謀に苦しめられているのは明らかだろう。しかし、トルストイの不幸な家族のように、各激戦州の不正の手法が州ごとに異なるのも事実である。すなわち、激戦州ではジョー・バイデンに勝利を導くため、それぞれが重要と考える不正を独自にミックスしているという特徴がある。

バイデンの勝利マージンが10457票と最も低かったアリゾナを考えてみよう。ここではマリコパ郡とピマ郡で統計的にあり得ないほど高い投票率があり、バイデンに多い160万票の郵送票があり、そしてそれらはトランプ支持に多い直接投票者に対してよりも遙かに緩い認証基準と身分証明の確認だった。

ジョージアでのバイデンの勝利マージンは11779票だった。南東部の州で際立ったのは何百万もの郵送票の署名確認を排除した違法な協定だろう。ここには真夜中にテーブルの下から取り出され、迅速に集計された謎の10万票という未解決の偽造票問題もある。もちろん、このジョージアの選挙区のスリーカード・モンテさながらのマジックにより、バイデンジャンプが記録されたことも忘れてはならない。

激戦州の中で選挙調査員や監視員を最も苦しめた栄光に輝くのはミシガンだ。”窓にボードを貼り付け”、”監視員を不倒に扱う”戦術により、ウェイン郡デトロイトはまさに見ざる聞かざる言わざるを強いる悪の枢軸といえた。地元の共和党の職員2人がこの郡の票の認定を保留して監査を要求した時、彼らは酷い脅迫を受け、ネット上の個人攻撃の的となり、降伏させられた。¹⁴³

ネバダといえばバイデンの勝利は薄いはずだった…その勝利マージンは33596票である。ここではAgilisの装置に関連する不正操作により、13万票もの疑わしい票が生み出されている。また州外の有権者や居住条件を満たしていない有権者による投票が異常に多かった可能性がある。もちろん、バイデン票を買うためのネイティブアメリカンへの卑劣な賄賂が州や民主党に薄汚い泥を塗ったことは言うまでもない。¹⁴⁴

ペンシルバニアでは同様に薄汚い民主党の州務長官がむき出しの票を受理するための違法な指示を出し、ペンシルバニア最高裁からの修正命令を無視した。彼女は州法に反して票が違法に修正されることを許可し、選挙日後に届いた票の受け入れを押し通した。

ペンシルバニアでもジョージアのスリーカード・モンテと同様、テーブルの下から不正票をシャッフルしながら取り出すマジックもあったが、不正票を作り出した疑惑も未解決のまま残っている。トラック運転手の証言を思い出してみよう。彼はニューヨークで作られた10万枚の偽造票をペンシルバニアへ届けたと言っていた。このトラックトレーラーと関係する投票用紙は両方とも行方不明のまま。そしてこのトレーラーの中にあつたかもしれないものは、選挙をバイデンの勝利とするに十分な量だった。

最後にウィスコンシン、疑惑のプロセスの母であるが、ここでは不在者票を装って郵送票約17万票を集計機に通すという明らかな州法違反がある。これはバイデンの勝利マージンである20682票の8倍以上である

ウィスコンシンでは”無期限に封じられた有権者”の定義を大幅に拡大することに関連する大規模不正もある。ここで、2020年大統領選で増加した新たな無期限に封じられた有権者の数は、バイデンの勝利マージンの5倍以上であったことを思い出して欲しい。

民主党の政府関係者が6つの激戦州の全てで不正を行い、選挙ゲームを繰り広げていた頃、共和党の政府関係者(知事や州議会議員、裁判官に至るまで)は何の対抗策も採っていなかった。

6つの激戦州のうち、アリゾナ、ジョージア、ミシガン、ペンシルバニア、ウィスコンシンの5州の州議会の両院は共和党である。¹⁴⁵ これらの州議会には明らかに、このレポートで報告された6つの軸となる策謀を調査する権限と機会があつた。しかし彼らは激しい政治的圧力に屈し、憲法上の義務と責任を放棄した。そのため、政党だけでなく州と国を裏切る結果となった。

同様のことは6つの激戦州のうちで共和党の知事がいるアリゾナとジョージアにも言える。アリゾナのダグ・デューシー知事とジョージアのブライアン・ケンプ知事は自分達の州が選挙不正で汚されている時、知事官邸に引きこもり、ただ傍観していた。

アメリカ政府の司法部門はこのレポートで示された問題の最後のセーフティネットであるべきである。それでも最高裁判所を含め、州裁判所および連邦裁判所は、アメリカ国民に突きつけられた選挙不正を裁く職務を拒否した。彼らの失態はアメリカ合衆国が大きな危険を孕んでいることを示している。

最後の考察

このレポートの調査から、トランプ-ペンス陣営に対して選挙を有利に進めんとする協調的な戦略があったのではないかと推察できる。事実、このレポートで考察された選挙不正のパターンは6つの激戦州全てで見られ、それはつまり、選挙をただ盗むのではなく、選挙をただの戦略ゲームに貶め、バイデン-ハリス陣営に有利な状況に不当に持ち込む協調的な戦略があったことを示唆する。

この”投票箱に票を詰める”戦略の主な部分は、テキサス州が最高裁判所に提出した訴状に適切にまとめられている。

ジョージア、ミシガン、ペンシルバニア、ウィスコンシンの民主党陣営はCOVID-19の流行を理由に立法府の権限を侵害し、州選挙法を不当に改正した。これらの法改正を執行部の独断的な命令や身内の訴訟により達成し、選挙の尊厳に泥を塗った。¹⁴⁶

テキサス州の訴え - 残念ながら最高裁はこの審理を拒否 - によると、この戦略の目的は激戦州で”何の確認もしないまま何百万もの郵送票を送りつける、あるいは投票箱に詰め込む”ことにあったという。同時に、民主党政府高官は”署名の照合と立会人の要件に対する強固な保全処置を弱める”方法を模索していた。¹⁴⁷

本レポートの考察はテキサス州の訴状と一致している。主なポイントは以下の通りである。

- 本レポートで明らかになった証拠の重要性と不正のパターンは、誰にとっても、特に主流メディアだが、不正や不正の証拠がないと主張するのは無責任であると言える。
- 選挙不正が暴かれたために問題となっている票は、例えそれが比較のごく一部でも、違法と認定されれば、トランプ陣営に勝利をもたらすに十分すぎるほどの規模である。
- 6つの全ての激戦州はほとんど、あるいは全てが選挙不正の軸となる6つの策謀を備えている。しかし、各州は独自にどれを”重視する策謀”とするかを考え、それらを組み合わせている。言い換えれば、全ての激戦州は同じ、あるいは類似の選挙不正をしているが、トルストイの不幸な家族のように、それぞれが異なる選挙不正の方法をとっていると言える。
- つまりこれはただ一発の”銀の弾丸”による選挙不正ではなく、6つの激戦州にまたがる6つの次元を組み合わせた千の切り口からなる不正なのである。

- 増え続ける選挙への正当な不満を無視することで、アンチトランプメディアと検閲するソーシャルメディアは真実からアメリカ国民を引き離すことに加担している。これはメディアの信頼性を損なうと同時に、政治システムと合衆国の安定性を損なう危険なゲームである。
- 現在バイデン・ホワイトウォッシュ(疑惑の洗浄)に参加しているジャーナリスト、評論家、政治指導者達は選挙不正の6つの策謀を認め、2020年大統領選挙の真実を見極めるための適切な調査をすべきである。就任式までにこれが行われなければ、アメリカ国民の大部分の支持を欠く違法かつ不正な大統領に権限を与える事になる。
- このレポートで評価された6つの選挙不正の策謀に対する、積極的かつ完璧な調査において失敗したのは、反トランプメディアと検閲ソーシャルメディア及び、立法府と司法府へシグナルを送ることである。
 - 6つの激戦州のうちアリゾナ、ジョージア、ミシガン、ペンシルバニア、ウィスコンシンの5州は州議会の両院で共和党が過半数を占めており、うちアリゾナとジョージアの共和党知事は本レポートで報告されている選挙不正の6つの策謀を調査する権限と機会を持っていた。しかし両者は激しい政治的圧力に屈し、憲法上の義務と責任を放棄した。結果、彼らは各州とアメリカ、そして政党を裏切ることとなった。
 - 最高裁判所を含める州裁判所と連邦裁判所は、アメリカ国民が目の前に晒された不正選挙を適切に裁き、拒否する機会を奪った。これはアメリカ合衆国に大きな危険をもたらす行為である。
- もしこれらの選挙不正への調査が就任式までに実施されなければ、そしてこのまま放置された場合、合衆国は今後、公正な大統領選挙を二度と行うことが出来なくなる危険がある。ジョージア州に1月5日に実施される重要な上院選はその迫り来る危険の最初のテストケースとなるだろう。

ENDNOTES

¹ All witnesses who have signed sworn affidavits or declarations who are referenced in this report but whose names are not referenced in the public record, e.g., a court case, are referred to as “Jane Doe” or “John Doe” based on gender. This has been done to ensure their safety and security.

² Ballotpedia, “Partisan composition of state legislatures,” December 4, 2020. https://ballotpedia.org/Partisan_composition_of_state_legislatures

³ Bump, Philip. “The two states that almost always predict which candidate is headed for defeat,” *The Washington Post*, 7 September 2016. <https://www.washingtonpost.com/news/the-fix/wp/2016/09/07/the-two-states-that-almost-always-predict-which-candidate-is-headed-for-defeat/>

*The two Democrat candidate exceptions were John F. Kennedy in 1960 and Bill Clinton in 1992.

⁴ Williams, Pete. “Trump's election fight includes over 50 lawsuits. It's not going well.” *NBC News*, November 23, 2020. <https://www.nbcnews.com/politics/2020-election/trump-s-election-fight-includes-over-30-lawsuits-it-s-n1248289>

⁵ All witnesses who have signed sworn affidavits and declarations referenced in this report are referred to as “Jane Doe” and “John Doe” based on gender, in order to ensure their safety and security.

⁶ Bannon, Steve, *War Room Pandemic*, <https://pandemic.warroom.org/>

⁷ Solomon, John, *Just the News*, <https://justthenews.com/john-solomon>

⁸ Kassam, Raheem, *National Pulse*, <https://americasvoice.news/the-national-pulse/>

⁹ *Newsmax*, <https://www.newsmax.com/>

¹⁰ *One America News Network*, <https://www.oann.com/>

¹¹ “Most Say Mail-In Voting Worked, But 47% Say Fraud Likely.” *Rasmussen Reports*, December 7, 2020.

https://www.rasmussenreports.com/public_content/politics/elections/election_2020/most_say_mail_in_voting_worked_but_47_say_fraud_likely

¹² Legal Information Institute, “Bribery,” *Cornell University*, <https://www.law.cornell.edu/wex/bribery>

¹³ Bedard, Paul, “Pro-Biden effort offered Native Americans \$25-\$500 Visa gift cards and jewelry to vote,” *Washington Examiner*, December 14, 2020. <https://www.washingtonexaminer.com/washington-secrets/pro-biden-effort-offered-native-americans-25-500-visa-gift-cards-jewelry-to-vote>

¹⁴ Pentochoukov, Ivan, “Illegal Money-for-Votes Raffles Conducted in Several States in 2020 Election,” *Epoch Times*, December 2, 2020. https://www.theepochtimes.com/illegal-money-for-votes-raffles-conducted-in-several-states-in-2020-election_3598915.html

¹⁵ Morgan, Jessy. Testimony. “A truck driver with USPS says he was suspicious of his cargo load of 288,000 completed ballots.” December 1, 2020. <https://www.youtube.com/watch?v=R0xaA4dYsbQ>

¹⁶ Declaration of John Doe, Delaware County Pennsylvania, November 9, 2020.

¹⁷ Bedard, Paul, “20 House Republicans demand Barr investigate ‘suitcases’ of ballots in Georgia,” *The Washington Examiner*, December 4, 2020. <https://www.washingtonexaminer.com/washington-secrets/20-house-gop-demand-ag-barr-investigate-suitcases-of-ballots-in-georgia>

¹⁸ “Trump Campaign lawyers present video 'evidence' of ballot fraud,” *Senate Judiciary Subcommittee*, December 4, 2020. <https://www.youtube.com/watch?v=LJ0xDWhWUxk>

Real American Politics, December 4, 2020. <https://twitter.com/RealAPolitics/status/1334754269052997635?s=20>

¹⁹ See, for example: Weber, Peter, “Georgia's top election investigator debunks a vote fraud conspiracy involving 'suitcases' of ballots, a urinal,” December 7, 2020. <https://news.yahoo.com/georgias-top-election-investigator-debunks-115236191.html>

²⁰ In the United States District Court for the District of Arizona, *Tyler Bowyer et al v. Doug Ducey*, December 2, 2020. <https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/12/Bower-Complaint-AZ.pdf>

²¹ Affidavit of Jane Doe, Cobb County, Georgia, November 12, 2020.

²² Declaration of Jane Doe, Bucks County, Pennsylvania, Nov 7, 2020

²³ *WisGOP*, “WisGOP: Trump lawsuit highlights indefinitely confined voter increase,” <https://www.wispolitics.com/2020/wisgop-trump-lawsuit-highlights-indefinitely-confined-voter-increase/>

²⁴ *WisGOP*, “WisGOP: Some indefinitely confined voters are not indefinitely confined,” <https://www.wispolitics.com/2020/wisgop-some-indefinitely-confined-voters-are-not-indefinitely-confined/>

²⁵ *WisGOP*, “WisGOP: Some indefinitely confined voters are not indefinitely confined,” <https://www.wispolitics.com/2020/wisgop-some-indefinitely-confined-voters-are-not-indefinitely-confined/>

- ²⁶ WisGOP, “WisGOP: Trump lawsuit highlights indefinitely confined voter increase,” <https://www.wispolitics.com/2020/wisgop-trump-lawsuit-highlights-indefinitely-confined-voter-increase/>
- ²⁷ Legal Information Institute, “18 U.S. Code § 611.Voting by aliens,” <https://www.law.cornell.edu/uscode/text/18/611>
- ²⁸ The Superior Court Of Fulton County State Of Georgia, *Trump v. Raffensperger*, December 4, 2020. <https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/12/Trump-v.-Raffensperger.pdf>
- ²⁹ In the Superior Court of Fulton County State of Georgia, November 30, 2020. <https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/11/2020-11-30-Verified-Complaint.pdf>
- ³⁰ Declaration of Jane Doe, Philadelphia County, Pennsylvania, November 8, 2020.
- ³¹ In the First Judicial District Court Carson City, Nevada *Jesse Law v. Judith Whitmer*, November 17, 2020. <https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/11/nov-17-doc-2.pdf>
- ³² Declaration of John Doe, Las Vegas, Nevada, November 22, 2020.
- ³³ “Rudy Giuliani claims 8,000 dead people voted in election in Pennsylvania,” November 25, 2020. https://www.youtube.com/watch?v=2_VUkBJAcg
- See Also*
- “Pennsylvania Senate Republican Lawmaker Hearing Transcript on 2020 Election,” *Rev*, November 26, 2020. <https://www.rev.com/blog/transcripts/pennsylvania-senate-republican-lawmaker-hearing-transcript-on-2020-election>
- ³⁴ Affidavit of Jane Doe, Oakland County, Michigan, November 11, 2020.
- ³⁵ Declaration of John Doe, Clark County, Nevada, November 7, 2020.
- ³⁶ In the Superior Court of Fulton County State of Georgia, *Paul Andrew Boland v Brad Raffensperger*, November 29, 2020. <https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/11/2020-11-30-Verified-Complaint.pdf>
- ³⁷ Statement of John Doe, Las Vegas, Nevada, November 20, 2020.
- ³⁸ Declaration of Jane Doe, Wisconsin, November 12, 2020.
- ³⁹ Affidavit of Jane Doe, Washtenaw County, Michigan, November 9, 2020.
- ⁴⁰ Declaration of Jane Doe, Northampton County, November 8, 2020.
- ⁴¹ Declaration of John Doe, Philadelphia County, November 14, 2020.
- ⁴² Declaration of Jane Doe, Northampton County, Pennsylvania, November 7, 2020.
- ⁴³ Affidavit of John Doe, Michigan, November 10, 2020.
- ⁴⁴ Declaration of Jane Doe, Clark County, November 8, 2020.
- ⁴⁵ *Ballotpedia*, “How do election workers match signatures? (2020),” [https://ballotpedia.org/How do election workers match signatures%3F\(2020\)](https://ballotpedia.org/How_do_election_workers_match_signatures%3F(2020))
- ⁴⁶ Democratic Party of Georgia, Inc. (“DPG”), the DSCC, and the DCCC, Compromise Settlement and Release, March 6, 2020. <https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/07/GA-Settlement-1.pdf>
- ⁴⁷ Petition for Writ of Madamus and Complaint for Declaratory and Injunctive Relief, “*Daniel Rodimer v. Joseph Gloria*, November 19, 2020. https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/11/Rodimer-v-Gloria_A-20-825130-W_Writ-of-Madamus.pdf
- ⁴⁸ In the First Judicial District Court Carson City, Nevada *Jesse Law v. Judith Whitmer*, November 17, 2020. <https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/11/nov-17-doc-2.pdf>
- ⁴⁹ In the United States District Court Eastern District of Wisconsin Milwaukee Division, *Donald J. Trump v. the Wisconsin Elections Commission*, December 2, 2020. <https://www.democracymocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/12/Trump-v-WEC-EDWI.pdf>
- ⁵⁰ *Ballotpedia*, “Pennsylvania Secretary of State,” https://ballotpedia.org/Pennsylvania_Secretary_of_State
- ⁵¹ The United States District Court for the Middle District of Pennsylvania, *Donald J. Trump for President et al v. Kathy Boockvar et al*, November, 18 2020. <https://www.courtlistener.com/recap/gov.uscourts.pamd.127057/gov.uscourts.pamd.127057.169.0.pdf>
- ⁵² The United States District Court for the Middle District of Pennsylvania, *Donald J. Trump for President et al v. Kathy Boockvar et al*, November, 18 2020. <https://www.courtlistener.com/recap/gov.uscourts.pamd.127057/gov.uscourts.pamd.127057.169.0.pdf>
- ⁵³ The Elections Assistance Commission, “Ballot Building,” https://www.eac.gov/sites/default/files/eac_assets/1/6/Chapter_5_Ballot_Building.pdf
- ⁵⁴ Harris, Bev, “About Chain of Custody,” *Election Watch*, February 16, 2016. <https://blackboxvoting.org/about-chain-of-custody/>
- ⁵⁵ Declaration of Jane Doe, Pennsylvania, November 7, 2020. Northampton County.
- ⁵⁶ Declaration of John Doe, Delaware County, Pennsylvania, November 7, 2020. (3 Pictures, 2 Videos)

-
- ⁵⁷ In the Supreme Court of the United States, *The State of Texas v. Commonwealth of Pennsylvania, State of Georgia, State of Michigan, State of Wisconsin*, December 7, 2020. <https://www.texasattorneygeneral.gov/sites/default/files/images/admin/2020/Press/SCOTUSFiling.pdf>
- ⁵⁸ Chaitin, Daniel, "Lindsey Graham: Possible ballot harvesting in Pennsylvania involving 25,000 nursing home residents," *Microsoft News*, November 10, 2020. <https://www.msn.com/en-us/news/politics/lindsey-graham-possible-ballot-harvesting-in-pennsylvania-involving-25-000-nursing-home-residents/ar-BB1aR3R4>
- ⁵⁹ Affidavit of Jane Doe, Brookfield, Wisconsin, November 10, 2020.
- ⁶⁰ Declaration of John Doe, Brown County, November 11, 2020.
- ⁶¹ Greenberg, Jay, "Dominion Technician Exposed as Anti-Trump Ex-Kamala Harris Worker," December 1, 2020. <https://neonnettle.com/news/13425-dominion-technician-exposed-as-anti-trump-ex-kamala-harris-worker>
- ⁶² Declaration of Jane Doe, Waukesha County, Wisconsin, November 11, 2020.
- ⁶³ "USPS contractor: 'Something profoundly wrong occurred in Wisconsin during the presidential election' " December 1, 2020. <https://www.youtube.com/watch?v=hRUvP6cbtZk&feature=youtu.be&t=69>
- See also*
- Van Brugen, Isabel, "Wisconsin USPS Subcontractor Alleges Backdating of Tens of Thousands of Mail-In Ballots," December 2, 2020. https://www.theepochtimes.com/wisconsin-usps-subcontractor-alleges-backdating-of-tens-of-thousands-of-mail-in-ballots_3601580.html
- ⁶⁴ State of Michigan Judicial District, *Cheryl A. Constantino and David A. Kallman v. City of Detroit*, November 8, 2020. <https://assets.documentcloud.org/documents/20403147/wayne-county-michigan-election-fraud-lawsuit.pdf>
- ⁶⁵ Affidavit of Jane Doe, Oakland County, Michigan November 10, 2020.
- ⁶⁶ Declaration of John Doe, Cobb County, Georgia, November 5, 2020.
- ⁶⁷ Affidavit John Doe, Eagle County, Colorado November 12, 2020.
- ⁶⁸ The Declaration of John McBlain, Esquire. *See*, The Supreme Court of the United States, *State of Texas v. Commonwealth of Pennsylvania, State of Georgia, State of Michigan, and State of Wisconsin*, December 7, 2020. https://www.supremecourt.gov/DocketPDF/22/22O155/163048/20201208132827887_TX-v-State-ExpedMot%202020-12-07%20FINAL.pdf
- ⁶⁹ Affidavit of Jane Doe, Gwinnett County, Georgia, November 12, 2020.
- ⁷⁰ Affidavit John Doe, Waukesha County, Wisconsin, November 10, 2020.
- ⁷¹ Affidavit of Jane Doe, Clark County, Nevada, November 10, 2020.
- ⁷² The Declaration of John McBlain, Esquire. *See*, The Supreme Court of the United States, *State of Texas v. Commonwealth of Pennsylvania, State of Georgia, State of Michigan, and State of Wisconsin*, December 7, 2020. https://www.supremecourt.gov/DocketPDF/22/22O155/163048/20201208132827887_TX-v-State-ExpedMot%202020-12-07%20FINAL.pdf
- ⁷³ Affidavit of John Doe, November 10, 2020, Waukesha County, Wisconsin.
- ⁷⁴ The Declaration of John McBlain, Esquire. *See*, The Supreme Court of the United States, *State of Texas v. Commonwealth of Pennsylvania, State of Georgia, State of Michigan, and State of Wisconsin*, December 7, 2020. https://www.supremecourt.gov/DocketPDF/22/22O155/163048/20201208132827887_TX-v-State-ExpedMot%202020-12-07%20FINAL.pdf
- ⁷⁵ The Superior Court Of Fulton County State Of Georgia, *Trump v. Raffensperger*, December 4, 2020. <https://www.democracymot.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/12/Trump-v.-Raffensperger.pdf>
- ⁷⁶ Liptak, Adam, "Supreme Court Allows Longer Deadline for Absentee Ballots in Pennsylvania and North Carolina," *New York Times*, October 28, 2020. <https://www.nytimes.com/2020/10/28/us/supreme-court-pennsylvania-north-carolina-absentee-ballots.html>
- ⁷⁷ Southwick, Ron, "Pa. received 10,000 ballots after polls closed on Election Day," *PennLive*, Nov10, 2020. <https://www.pennlive.com/elections/2020/11/pa-received-10000-late-ballots-that-arrived-after-polls-closed-on-election-day.html>
- ⁷⁸ Declaration of Jane Doe, Delaware County, Pennsylvania, November 7, 2020.
- ⁷⁹ The Supreme Court of Wisconsin, "Donald J. Trump et al v. Anthony Evers et al" December 1, 2020. https://cdn.donaldjtrump.com/public-files/press_assets/wisconsin-filing-12-1-20_compressed.pdf
- ⁸⁰ Declaration of Jane Doe, Oak Creek, Wisconsin, November 11, 2020.
- ⁸¹ The Superior Court Of Fulton County State Of Georgia, *Trump v. Raffensperger*, December 4, 2020. <https://www.democracymot.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/12/Trump-v.-Raffensperger.pdf>
- ⁸² Declaration of John Doe, Montgomery County, Pennsylvania, November 7, 2020.
- ⁸³ Declaration of John Doe, Allegheny County, Pennsylvania, November 9, 2020.
- ⁸⁴ Declaration of John Doe, Ingham County, Michigan, November 11, 2020.
- ⁸⁵ Declaration of Jane Doe, Ingham County, Michigan, November 11, 2020.

-
- ⁸⁶ Declaration of Jane Doe, Wheaton, Illinois, November 9, 2020.
- ⁸⁷ “Cure period of absentee and mail-in ballots,” *Ballotpedia*, Accessed on December 14, 20. https://ballotpedia.org/Cure_period_for_absentee_and_mail-in_ballots
- ⁸⁸ “Cure period of absentee and mail-in ballots,” *Ballotpedia*, Accessed on December 14, 20. https://ballotpedia.org/Cure_period_for_absentee_and_mail-in_ballots
- ⁸⁹ Declaration of Jane Doe, Centre County, Pennsylvania, November 11, 2020.
- ⁹⁰ The United States District Court for the Middle District of Pennsylvania, *Donald J. Trump for President et al v. Kathy Boockvar et al*, November 18, 2020. <https://www.courtlistener.com/recap/gov.uscourts.pamd.127057/gov.uscourts.pamd.127057.169.0.pdf>
- ⁹¹ The United States District Court for the Middle District of Pennsylvania, *Donald J. Trump for President et al v. Kathy Boockvar et al*, November 18, 2020. <https://www.courtlistener.com/recap/gov.uscourts.pamd.127057/gov.uscourts.pamd.127057.169.0.pdf>
- ⁹² Declaration of Bartholomew W. and Jean B. W., Milwaukee County, Wisconsin, November 16, 2020. *See Also* <https://www.jsonline.com/story/news/2020/11/11/fact-check-republicans-claim-wisconsin-clerks-illegally-altered-ballots/6234023002/>
- ⁹³ Declaration of John Doe, Delaware County Pennsylvania, November 9, 2020.
- ⁹⁴ State of Michigan Court of Appeals, “*Donald J. Trump for President et. al v. Jocelyn Benson*,” November 30, 2020. <https://www.democracymonitor.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/11/Trump-brief-FINAL.pdf>
- ⁹⁵ Affidavit of Jane Doe, Washtenaw County, Michigan, November 9, 2020.
- ⁹⁶ Cornell University, “Equal Protection,” *Legal Information Institute*, https://www.law.cornell.edu/wex/equal_protection
- ⁹⁷ Lai, Jonathan et al, “Joe Biden won 3 of every 4 mail ballots in Pennsylvania. Trump won 2 of 3 votes cast in person. What does that mean for the future?” *The Philadelphia Inquirer*, <https://www.inquirer.com/politics/election/mail-ballots-pennsylvania-election-trump-biden-20201119.html>
- ⁹⁸ Declaration of John Doe, County of Milwaukee, Wisconsin, November 11, 2020
- ⁹⁹ Blair County, Berks County, Lancaster County, Carbon County, Clinton County, Lycoming County, Dauphin County, and Perry County.
- ¹⁰⁰ *Joseph D. Hamm v. Kathy Boockvar*, Commonwealth Court of Pennsylvania, November 3, 2020. <http://www.pacourts.us/assets/files/setting-7723/file-10362.pdf?cb=f327ff>
- ¹⁰¹ Secretary of State of Arizona, “Voters have a limited amount of time to correct certain ballot issues,” November 9, 2020. <https://azsos.gov/about-office/media-center/press-releases/1248>
- ¹⁰² In the United States District Court for the District of Arizona, *Tyler Bowyer et al v.. Doug Ducey*, December 2, 2020. <https://www.democracymonitor.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/12/Bower-Complaint-AZ.pdf>
- ¹⁰³ *National Conference of State Legislatures*, “Poll Watchers and Challengers,” October 1, 2020. <https://www.ncsl.org/research/elections-and-campaigns/poll-watcher-qualifications.aspx>
- ¹⁰⁴ *National Conference of State Legislatures*, “Poll Watchers and Challengers,” October 1, 2020. <https://www.ncsl.org/research/elections-and-campaigns/poll-watcher-qualifications.aspx>
- ¹⁰⁵ Affidavit of Jane Doe, Rockdale County, Georgia, November 2020.
- ¹⁰⁶ Declaration of John Doe, Philadelphia, Pennsylvania, November 8, 2020.
- ¹⁰⁷ Affidavit of Jane Doe, Brookfield, Wisconsin, November 10, 2020.
- ¹⁰⁸ *Ballotpedia*, “Voting Equipment and Methods by State,” https://ballotpedia.org/Voting_methods_and_equipment_by_state
- ¹⁰⁹ *Ballotpedia*, “Voting Equipment and Methods by State,” https://ballotpedia.org/Voting_methods_and_equipment_by_state
- ¹¹⁰ *Dominion Voting Systems*, “About,” <https://www.dominionvoting.com/about/>
- ¹¹¹ Varnona, Frank “2020 Stolen Election by Dominion Voter Systems – Hammer & Scorecard,” *Conservative Business Journal*, <https://www.conservativebusinessjournal.com/2020-stolen-election-hammer-and-scorecard/>
- ¹¹² *Clinton Foundation*, “The Delian Project,” <https://www.clintonfoundation.org/clinton-global-initiative/commitments/delian-project-democracy-through-technology>
- ¹¹³ For example, the Chairman of Smartmatic, Mark Malloch-Brown, is on the board of George Soros’ Open Society Foundation. *Open Society Foundation*, “Leadership,” <https://www.opensocietyfoundations.org/who-we-are/leadership/mark-malloch-brown>
- ¹¹⁴ The First Judicial Court in Carson City, Nevada, “*Jesse Law et al v. Judith Whitmer et al*,” November 17, 2020. <https://www.democracymonitor.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/11/nov-17-doc-2.pdf>
- ¹¹⁵ The First Judicial Court in Carson City, Nevada, “*Jesse Law et al v. Judith Whitmer et al*,” November 17, 2020. <https://www.democracymonitor.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/11/nov-17-doc-2.pdf>

¹¹⁶ “In violation of Nevada law, the Clark County Election Department allows the Agilis machine to solely verify 30% of the signatures accompanying the mail-in ballots without ever having humanize inspect those signatures.”

¹¹⁷ In the Superior Court of Arizona in and For the County of Maricopa, “*Kelli Ward v. Constance Jackson et al*,” November 24, 2020. <https://assets.documentcloud.org/documents/20417265/ward-v-jackson-complaint-and-petition-for-discovery.pdf>

¹¹⁸ In the Superior Court of Arizona in and For the County of Maricopa, “*Kelli Ward v. Constance Jackson et al*,” November 24, 2020. <https://assets.documentcloud.org/documents/20417265/ward-v-jackson-complaint-and-petition-for-discovery.pdf>

¹¹⁹ Affidavit of John Doe, Dallas County, Texas. November 17, 2020.

https://www.courtlistener.com/recap/gov.uscourts.gand.283580/gov.uscourts.gand.283580.7.1_2.pdf

¹²⁰ Ramsland Jr., Russell. “Antrim Michigan Forensics Report.” *William Bailey v. Antrim County, Michigan*, December 13, 2020.

[https://depernolaw.com/uploads/2/7/0/2/27029178/antrim_michigan_forensics_report_\[121320\]_v2_\[redacted\].pdf](https://depernolaw.com/uploads/2/7/0/2/27029178/antrim_michigan_forensics_report_[121320]_v2_[redacted].pdf)

¹²¹ “Excerpts from the 2002 FEC Voting System Standards – 3.2.1 Accuracy Requirements.” *Michigan Secretary of State*. <https://www.michigan.gov/sos/0,4670,7-127-1583-130621--,00.html>

¹²² “Document Retention Schedule.” *Michigan Bureau of Elections*, May 2019. https://www.michigan.gov/documents/sos/Document_Retention_Schedule_412493_7.pdf

¹²³ Sperry, Paul. “Georgia voting irregularities: The curious case of Biden’s 20,000-vote surge.” *The Citizen*, November 15, 2020. <https://thecitizen.com/2020/11/15/georgia-voting-irregularities-the-curious-case-of-bidens-20000-vote-surge/>

¹²⁴ Parks, Miles, “Why Some Mail-In Ballots Are Rejected As Invalid,” *NPR*, October 4, 2020.

<https://www.npr.com/2020/10/04/920175418/why-some-mail-in-ballots-are-rejected-as-invalid>

¹²⁵ Livingston, Doug, “Why absentee ballots get rejected, and how to make yours count,” *USA Today*, September 21, 2020. <https://www.beaconjournal.com/story/news/2020/09/21/why-absentee-ballots-rejected-presidential-and-other-elections/3486553001/>

¹²⁶ Livingston, Doug, “Why absentee ballots get rejected, and how to make yours count,” *USA Today*, September 21, 2020. <https://www.beaconjournal.com/story/news/2020/09/21/why-absentee-ballots-rejected-presidential-and-other-elections/3486553001/>

¹²⁷ Election Assistance Commission, “The Election Administration and Voting Survey; A Report to the United States Congress,” 2016. https://www.eac.gov/sites/default/files/eac_assets/1/6/2016_EAVS_Comprehensive_Report.pdf

¹²⁸ *Ballotopedia*, “Election results, 2020: Analysis of rejected ballots,” December 11, 2020.

https://ballotpedia.org/Election_results,_2020:_Analysis_of_rejected_ballots

See Also

Office of Nevada Secretary of State Barbara K. Cegavske, “2020 General Election Turnout Mail Ballot Information,” <https://www.nvsos.gov/sos/home/showdocument?id=9058>

¹²⁹ Election Assistance Commission, “The Election Administration and Voting Survey; A Report to the United States Congress,” 2016. https://www.eac.gov/sites/default/files/eac_assets/1/6/2016_EAVS_Comprehensive_Report.pdf

¹³⁰ *Ballotopedia*, “Election results, 2020: Analysis of rejected ballots,” December 11, 2020. https://ballotpedia.org/Election_results,_2020:_Analysis_of_rejected_ballots

See Also

U.S. Elections Project, “Pennsylvania Early Voting Statistics,” November 20, 2020. <https://electproject.github.io/Early-Vote-2020G/PA.html>

¹³¹ Election Assistance Commission, “The Election Administration and Voting Survey; A Report to the United States Congress,” 2016. https://www.eac.gov/sites/default/files/eac_assets/1/6/2016_EAVS_Comprehensive_Report.pdf

¹³² The Superior Court Of Fulton County State Of Georgia, *Trump v. Raffensperger*, December 4, 2020. <https://www.democracydocket.com/wp-content/uploads/sites/45/2020/12/Trump-v.-Raffensperger.pdf>

¹³³ For example, in Pennsylvania, 3 out of every 4 absentee/mail-in ballots went to Joe Biden

<https://www.inquirer.com/politics/election/mail-ballots-pennsylvania-election-trump-biden-20201119.html>

And in Milwaukee, Wisconsin, 84% of absentee/mail-in ballots went to Joe Biden

<https://www.tmj4.com/news/election-2020/no-joe-biden-did-not-get-100-percent-of-all-milwaukee-absentee-ballots>

¹³⁴ Heine, Debra, “Mathematician Says Biden May Have Received 130 Percent of the Democrat Vote in Maricopa County, Arizona,” December 2, 2020. <https://themichiganstar.com/2020/12/02/mathematician-says-biden-may-have-received-130-percent-of-the-democrat-vote-in-maricopa-county-arizona/>

¹³⁵ Affidavit of Russel R., Dallas County, Texas. November 17, 2020.

https://www.courtlistener.com/recap/gov.uscourts.gand.283580/gov.uscourts.gand.283580.7.1_2.pdf

¹³⁶ *Milwaukee City Wire News Service*, “Analysis: Five Milwaukee wards report 89% turnout in 2020 presidential vote; Biden nets 146K votes in city,” November 4, 2020. <https://mkecitywire.com/stories/564495243-analysis-seven-milwaukee-wards-report-more-2020-presidential-votes-than-registered-voters-biden-nets-146k-votes-in-city>

¹³⁷ *Milwaukee City Wire News Service*, “Analysis: Five Milwaukee wards report 89% turnout in 2020 presidential vote; Biden nets 146K votes in city,” November 4, 2020. <https://mkecitywire.com/stories/564495243-analysis-seven-milwaukee-wards-report-more-2020-presidential-votes-than-registered-voters-biden-nets-146k-votes-in-city>

¹³⁸ Duda, Jeremy. “GOP lawsuit questions 'duplicate' ballots in Queen Creek,” *San Tan Valley Sentinel*, November 27, 2020. https://www.pinalcentral.com/san_tan_valley_sentinel/local_news/gop-lawsuit-questions-duplicate-ballots-in-queen-creek/article_e9557d0-97e4-53e9-a269-5beb4b64370a.html

¹³⁹ In the Superior Court of Arizona in and For the County of Maricopa, *Kelli Ward v. Constance Jackson et al*, November 24, 2020. <https://assets.documentcloud.org/documents/20417265/ward-v-jackson-complaint-and-petition-for-discovery.pdf>

¹⁴⁰ *Voter Integrity Project*, “Anomalies in Vote Counts and Their Effects on Election 2020,” November 24, 2020. <https://votepatternanalysis.substack.com/p/voting-anomalies-2020>

¹⁴¹ *Voter Integrity Project*, “Anomalies in Vote Counts and Their Effects on Election 2020,” November 24, 2020. <https://votepatternanalysis.substack.com/p/voting-anomalies-2020>

¹⁴² *Voter Integrity Project*, “Anomalies in Vote Counts and Their Effects on Election 2020,” November 24, 2020. <https://votepatternanalysis.substack.com/p/voting-anomalies-2020>

¹⁴³ *News Now*, “Michigan Republican Electors Harassed And Forced To Change Vote,” November 18, 2020. https://www.youtube.com/watch?v=YW1YzQY_1Ro

Dowling, M. “Michigan’s largest county refuses to certify the election – Update, evil wins,” *Independent Sentinel*, November 17, 2020. <https://www.independentsentinel.com/michigans-largest-county-refuses-to-certify-the-election/>
See Also

Institute for Political Economy, “Wayne County Michigan Withdraws Election Certification, Security Expert Concludes Michigan Was Stolen.” <https://www.newsbreak.com/news/2105758771365/wayne-county-michigan-withdraws-election-certification-security-expert-concludes-michigan-was-stolen>

¹⁴⁴ Pentchoukov, Ivan, “Illegal Money-For-Votes Raffles Conducted in Several States in 2020 Election,” December 1, 2020. https://www.theepochtimes.com/illegal-money-for-votes-raffles-conducted-in-several-states-in-2020-election_3598915.html

¹⁴⁵ Ballotpedia, “Partisan composition of state legislatures,” December 4, 2020. https://ballotpedia.org/Partisan_composition_of_state_legislatures

¹⁴⁶ *State of Texas v. The Commonwealth of Pennsylvania, State of Georgia, State of Michigan, State of Wisconsin*, “Motion for Leave to File Bill of Complaint,” December 7, 2020. https://www.supremecourt.gov/DocketPDF/22/22O155/162953/20201207234611533_TX-v-State-Motion-2020-12-07%20FINAL.pdf pg. 1

¹⁴⁷ *State of Texas v. The Commonwealth of Pennsylvania, State of Georgia, State of Michigan, State of Wisconsin*, “Motion for Leave to File Bill of Complaint,” December 7, 2020. https://www.supremecourt.gov/DocketPDF/22/22O155/162953/20201207234611533_TX-v-State-Motion-2020-12-07%20FINAL.pdf pg. 1

¹⁴⁸ Ballotpedia, “Partisan composition of state legislatures,” December 4, 2020. https://ballotpedia.org/Partisan_composition_of_state_legislatures